

平成30年度第3回坂井市子ども・子育て会議 議事概要

日時	平成30年3月22日（金） 午後7時～
場所	坂井市役所 多目的研修センター 円卓会議室
出席者	委員：石川会長 水野副会長 堀田委員 伊東委員 平田委員 渡辺委員 堀内委員 近藤委員 事務局：三上次長 西課長 坪内課長補佐 森田課長補佐 江川課長補佐 運営支援：（株）ジャパンインターナショナル総合研究所
欠席者	4名
協議事項	(1) 子ども・子育て支援事業計画に係る「ニーズ調査中間報告」について (2) 平成31年度入園児童数について (3) 平成31年度児童クラブ登録児童数について
資料	・子ども・子育て支援計画策定に関するニーズ調査結果中間報告 ・H31保育園等入園児童数 ・保育園別新規入園希望者状況一覧 ・平成31年度 坂井市放課後児童クラブ登録児童数 ・坂井市子ども・子育て支援策定スケジュール

1. 開 会

2. 会長あいさつ

【会長】

出席委員数の確認 12人のうち3名欠席、1名遅れ現在8名出席。過半数以上出席なので会は成立、開始。傍聴人なし。

3. 議題

- (1) 子ども・子育て支援事業計画に係る「ニーズ調査中間報告」について

【事務局より説明】

【会長】

市民の皆様に回答率50、60%と回答いただいた。お忙しいところ返送していただき、熱心に回

答していただいた結果であるので、できるだけ施策に反映していきたい。選挙も始まり自分の一票がどうなるかという気持ちの方もいるだろうが、回答した結果がどこかで反映されるという実感を持つことが、行政に対して関心を持っていただくことだと思うので、この結果を踏まえ少しでも具体的な施策につなげなければならないと思う。全部で23の項目があったので、勝手ながら12ページの(14)までを前半とし、それ以降を後半と便宜的に切らせてもらい、意見を整理したい。まずは調査結果前半についてお気づきの点をどうぞ。項目によっては前回調査との比較も出ており、よかった点も出ている。

とりかかりは私から。4ページの(5)について。5年前にも同じことを言った記憶があるが、気軽に相談できる人や場所がないと答えている人が、就学前は3.6%、小学生が9%だ。就学前については前回調査より減ってはいるが、実際の世帯数になるとどれくらいの世帯数になるのか。この数字は小さいが、世帯数や人数に換算すると結構大きいのではないかと思えるので、その推量をしていただきたい。それだけ孤立する人がいるのかもしれないという推測のもと、相談体制などの気持ちを持って保護者と接していくことが必要ではないか。決して小さい数字ではないと受け止めているというのが私の感想だ。

【委員】

それに加え、5ページの不安や悩みがあるか、のところで、「ある」と答えている人が減り、「ない」が増えている。これは子どもにどういう思いで「ある」が減っているのか。先ほどの先生の話のように、相談できる人が増えたので不安が減ったのか、それともそこまでの関心が薄れてきたのか、どちらなのかが気になった。調べようがないが。

【会長】

日頃の保護者との接し方やお便り帳のやり取りの中で、その傾向が見られるかどうかというところで対応していくしかないと思う。

【委員】

あまりに「ない」が倍になっていたりするところが、反対に不安だ。

【会長】

数字では「ない」が増えている。一見いいように見える。

【委員】

いいように見えるが、反対に私から見るとちょっと。

【会長】

関心が薄れたというのものもあるかもしれない。

【委員】

そうかなとちょっと見えてきて。

【会長】

なるほど、ありがとうございます。どうぞ。

【委員】

虐待の話も出てきたが、教育委員会でも小中虐待やいじめのことを毎日話しているが、6 ページの「子どもを叱りすぎていること」の数値が多いのが気になる。家の方はしつけだという、その線引きが難しい。親がしたことを子どもは口止めされており、学校側が聞き取りをしても家の中のことを一切子どもは言わない。見えない部分が多く、それをいかに見つけていくかが至難の業だ。結局虐待を知るのは、近所の方の通報、隣の家から大声で叱る声が聞こえるなどが多い。緊急性も多いものもあり、兇相も入って動いているケースもたくさんある。叱りすぎているような気がするというところが、非常に教育委員会も気にしていて、そこを拾っていかないといけないと思う。家の方の意識もあり、こういうケースで多いのがどうしても母子家庭、父子家庭が非常に多い。先ほどにもあった相談できる人がいないというと、背景を見ると近所には祖父母がいない、同居していない、頼れる人がいない。結局保護者の不満が募り、それが全部子どもに行ってしまうのが非常に多くなっていると感じている。

【会長】

ありがとうございます。大事なところだ。どうぞ。今日は人数が多くないのでぜひ会議中一言どうぞ。

【委員】

私自身の話になるが、小学生の娘が2人と保育園の娘が1人おり、アンケートを見ると自分だったらどうかと見てしまう。「叱りすぎている」というのは私自身も思うことがある。それは自分に全く余裕がない時が多い。例えば今日も、今日までが締め切りの家庭環境調査票を出してきたので、「今出しても書いている暇がないから先生に謝るか、自分で書いて出しなさい!」と言ってしまった。自分の勤め先が変わったくらいでも書いてやればよかったと思う。それとは関係ないが、一番上の子どもが二学期に入りクラスの女子から無視される状態だったのだが、私が心配するからか一切言わず、気づくのが遅くなった。辛い思いをしながら学校に行っていたようだ。自分のことが悪かったとも思う。自分が心配性だから、なにかあったら言ってほしいと言っていたのだが。私も誰に相談したらいいかわからなかった。先生には言わないでと言うし、話してくれず、学校は嫌と言わずに行くので、子どもが大丈夫という言葉信じて行かせていた。やはり様子がおかしく、仲良くしているお母さんから子どもに聞いてみたら無視されているようだということだった。ちょうどその時期に学校でいじめ調査票が配られて、言い出しっぺの子がこれに書かれたらまずいと思ったのか、無視をやめようと急に言い出したらしい。その子の一言で無視が始まり、無視が終わったというのも腑に落ちない。原因はわからないままで、うちの子にも原因

はあったと思い日ごろの行いを直すように言った。子どもも親に心配するから言えず、やっと言ったかと思うと先生には言わないでと言う。そうすると解決のしようがない。私はたまたま友達のお母さんが近くにいたから話が聞けた。結局当事者のお母さんと話もして、解決はした。先生とも話をした。子どもは言わないでと言ったが、修学旅行も近いので同じことが起こるのも心配で、今回はうちの子がされる立場だったがする側にもなる心配もあったので、先生に相談した。何が言いたいかわからないが、自分たちだけで解決できないこともまだまだたくさんある。無視をする子も何か心に抱えているようだ。影で死ぬと言っているようなことも聞いた。いじめの調査票だけではわからない部分もある。名前を書くように書かれているが、お母さんと仲良くしていると書きづらい。今回は書いた。

【会長】

そういう風に悩んでいる人がいるということだ。それをどこまでの確にキャッチできるかは、現場判断になる。そういうことを打ち明けてもいいと思ってもらえるような、日頃の先生方との関係を築いていくことが大事だ。何かあったらこの人に言おうと思ってもらえるような現場の先生が必要だ。この人に言っても変わらない、と思われては何も言わないと思う。我々、大学の教授も同じだと思う。

【事務局】

先生に言うと犯人を捜されると思ったのか。そこが知りたい。言わなかったのではなく言えなかった理由を読み取っていたのではないかと思う。

【委員】

クラスは1クラスしかなく、放課後バレーボールをやっていて、そのメンバーだった。バレーボールがきっかけだったが、そこで解決できるはずがクラスに広まってしまった。話が行くのがいやだったのかなという気はする。

【会長】

リアリティのある問題提起はありがたい。

【委員】

先ほどの子どもを叱りすぎているの件で、私は祖母の立場で、我が家の様子を見ているともうちょっと叱ってほしいと思うことがある。親の気持ちと祖母の気持ちは違い、今の親はあまり叱らないと思う。そういう声を私たちの間では聞く。ここでは、子どもを叱りすぎているという親御さんもいるが、ひとり親家庭になるとそういうことが多くなるのかなと思う。お勤めしている人は忙しくてついつい、そういう問題が起きてくるのかなと思う。我が家も一日勤めなので気持ちはわかるが、あまり叱らないな、と思う私もいる。

【事務局】

子育てを学んでいない。教育、勉強は学んでいるが、子育ては学んでおらず、学ぶ場も少なくなっており就労も増えており色々な理由が絡んでいるから、そのように感じるのだろう。そこを分析するのは難しい。

【会長】

難しい。親は自分で叱りたくないから、先生に叱ってほしい。

【委員】

園から言ってもらう方が効き目があるので、とか。

【会長】

そういうときだけ先生、先生と言われたりする。

【委員】

家での話で、こんなことすると先生に叱られるよ、といったというような話も聞く。

【会長】

ニーズ量の話になるが、7 ページの (7) で母親の現在の就労状況や一年以内の希望を聞いている。福井県の特徴で、フルタイムやパートタイムで働いている人が多く保育のニーズが大きいのが、これからの推計値の出し方は、就労が増えることも見込んでニーズ量も出していくのか。就労希望者が増えるという見込みで受け皿を整備していかなければいけなくなっていくのか。3 歳以上と未満で対応は違うと思うが、特に 0~2 歳児でどれくらいニーズ量が増えるのか、その見込みは必要になってくると思う。統計上の分析の仕方になるのかもしれないが、ぜひお願いしたい。また 8 ページ、育休をとる方が前回より男性も女性も増えている。それとのバランスで、0~2 歳のニーズ量のシミュレーションが必要になると思う。これは私の感想だ。

また、10 ページの (11)、「無償化を踏まえた、今後利用したい見込み」について。幼稚園や幼稚園プラス預かり保育のやり方を選ぶ人と最初から 2 号認定を選ぶ人が、これからどちらを選ぶのかまだ見えない。働き方やその保育の特徴によっても選ばれると思うが、預かり保育については一定の条件でこの部分も無償化されるので、利用の仕方は分かれていくと思う。幼稚園プラス預かり保育か、最初から 2 号認定か。これはどうなるかわからない。

【事務局】

幼稚園の預かり保育が無償なのは、あくまでも就労している人が対象だ。就労があるかないかという問題になる。

【会長】

最初から 2 号を選ぶ人もいると思う。

【事務局】

それは就労しているからだ。幼稚園が預かり保育が無償になるかということ、就労していないと
ならない。

【会長】

就労証明を出せばいい。そうすると 2 号認定との違いがあるようでないようで、保護者がどち
らを選ぶかはわからない。

【事務局】

基本幼稚園に入っている人は、就労していない人がほとんどだ。パートは行っているかもしれ
ないが、就労とみなす要件の時間帯は行っていないので幼稚園に預けている。そういう人は預か
り保育の部分は無償化にならない。あいまいといえばあいまいだが、そういう言い方になってい
る。細かいことは今からだと思う。

【会長】

次は 12 ページの(15)以降、後半部分の意見をお願いしたい。特に小学校の学童保育の利用希望を
含めた内容が中心だが、何かあればどうぞ。

【委員】

学童保育を福井市で 3 施設運営しているが、子どもの成長に合わせた指導員を育てないと、た
だ見守るだけになり子どもにとって良くない。アンケートにあるように学童保育を選ぶ人が増え
てきた。児童館より学童保育が選ばれるようになり、それに対応するスキルを身につけないとい
けない。放課後児童支援員という資格があり、うちも 16 人くらい資格を取っているが追いつかな
い。子どもの対応力を上げないと、今の子どもは知恵やいろんなものが発達している。上手に遊
ばせたり上手に指導しないと、一つの健全育成の場でただ見守る場所ではないので、市としても
力を入れてほしい。福井市にも言っているが発達障がいの子どものも増えており、例えば 50 人中 7
人の発達障がいの子どものがいたら、7 人配置しないと実際は安全に過ごせないで、持ち出しで
やっている。ガラスを割るなど自分で自分の体を傷つける子もいる。1 人に 1 人つけないと無理
だ。100 人を超える児童クラブなどはどうやって運営しているのか。新 1 年生などは対応力がな
いと難しい。これだけニーズがあると数だけ多いだけではなく、指導員、支援員の教育にも入っ
てきてほしい。児童クラブは幼稚園とは違い体も動く。施設の大きい部屋はない。そこで十分
に遊んでもらえるか、いきいき生活ができるかということちょっと狭い。2 期の計画の中で坂井市
にも言った方がよい。就労する人が 9 割ほどになっているのでニーズは増えると思う。

【会長】

放課後児童クラブは制度上、一人当たり 1.65 m²の広さが必要と決められていたと思うが、小学
生の活動量を思うと面積基準は小さすぎる。矛盾を抱える。

【委員】

放課後児童クラブはとてもいいと思う。私の地区は1年生が60人ほどいるが、30名ほどは児童クラブへ行く。自分の地区へ帰る子は1人か2人。わが孫も1年生になるが、毎日迎えに行かないと心配だと思う。放課後帰ってからもどうしようか。近くに児童館もない。春江町は児童館をなくす方向にきている。

【事務局】

児童館はなく、児童館機能を持った施設はあるが。

【委員】

校下のところにはないから、結局どこにも行けずほうっておくしかない。祖父母の仕事になると思っている。みんなが児童クラブに行くので、そういう悩みもある。

【会長】

エリアによって差があるのも問題だ。児童クラブは基本学区で対応することなので、エリアを超えるわけにいかない。

【委員】

私も同じだ。明章地区はもともと人数も少ないのもあるが、児童クラブに行ってしまうと行っていない子は遊ぶ友達がいない。

【委員】

14 ページ(17)の学童時間の利用時間について。保育園は19時まで対処していて利用者も何人かいる。児童クラブは18時までで、その他に18時台で4件、19時台で6件という回答があったが、今後に活かされていくか。

【事務局】

希望により18時から30分延長できるようになっている。それよりもさらに19時までという希望がある。あくまでも希望だ。なかなか難しい。

【委員】

フルタイムで働いていると18時30分は厳しい。

【委員】

保育所時代は19時までぎりぎりを利用して、小学校になると切られてしまうのでシフトを悩んでいるお母さんたちがいる。

【事務局】

就労の時間による。シフト制だとそういうことになる。

【会長】

急に18時あたりというわけにもいかない。

【委員】

だいたいそういう方はそれこそシングルの方もいるので、働かないといけない場合がある。

【事務局】

放課後児童クラブは、非常勤職員だけで対応している。19時まで延長することも以前検討されたか、職員も。家に帰ってご飯の用意もしないと、という方が多く、難しかった覚えがある。

【委員】

保育所も18時までで切ってあれば保護者もそんなに思わない。保育所では見てくれたのに、というのがある。

【委員】

実際に運営していると、18時30分では切れない。そこから延びる場合は特別延長料金をもらうが、それでも19時を過ぎても来る。そうすると、1人に対して2人配置しなければならないので、線引きは必要だ。どうしても間に合わないと言われたらやむを得ず待つしかない。書いてある通り、19時まで実態としては必要だ。ほとんどは18時までだが、超える方もいるので、お迎えに来るまで2人配置して見ている。保護者には18時30分までにとというが、交通の便もあり難しいところもある。対応しているのが実状だ。

【会長】

物ではなく命を預かっているので、むげにできないところはある、難しい。ニーズにこたえて時間を延ばすとさらに延びるという場面もあるので、どこかでは線引きをしないとけない。

時間の都合もあるので全体を通じてここだけはおさえておきたいというところはあるか。

【委員】

7ページで、就労する人が0～3歳児でもアンケートを見ると増えていて8割の方が働いている。私は別途企業内の託児所もやっているが、利用者が増えている。聞いてみると、すぐに保育園に入れないうだ。一時だけでも見てほしいがなかなかなく、企業内で独自の基準をつくり1時間200円くらいで見ている。就労する人はこれからも増えると思う。保育所や認定こども園と、産後1歳になるまでの2～3か月、クッションのように預かってくれるサービスがあれば保育所にスムーズにいけるのではないか。就労証明が出るまでにかかる2～3か月の期間を見てくれるところがあればよい。企業も人手不足で、支援していかなければいけないと思う。行政が、無理かもし

れないが企業に頼って打ち合わせなどができればよい。自分のところの従業員しかしていないが、福井県のようにこれだけ働く人がいる地域では、企業主導型保育があるとよい。

【会長】

坂井市内で企業主導型保育や事業所内保育で動きが出ている会社はあるか。

【事務局】

ない。

【委員】

子育て支援センターは、市は介入していないのか。

【事務局】

それは市が運営している。春江だと市が委託している。子どもと保護者の交流の場なので、一時預かりではない。子育ての相談をするような、親子交流の場なので、いろいろ使い分けをしながら利用していただきたい。

【委員】

お願いをすれば半日や一日預かってもらえるというのは聞いている。

【事務局】

それは一時預かりというサービスとしてやって場所もある。

【委員】

結構お値段が張る。

【事務局】

保育所の入所申請は事前申請がメインなので、そのタイミングがずれるのだろう。坂井市は前年の11月に一斉に予約をしているので、急に入る方はなかなかないと思う。

【委員】

企業内でやっているのと、施設的に自由に外で遊ぶというところまでできない。2~3か月で保育園に行ってほしいが、ずっといる子どももいる。1日に6、7時間いる。託児であって、保育ではないというか、そこにずっといるのはよくないと思う。これだけ働く人がいるなら色々な支援をする場がないと難しいと思う。

【会長】

公的保育で認可にお願いするか認可外にするかというのもある。

【事務局】

無償化の対象にならないというのもある。

【会長】

ここまでのところ、副会長、何かあればどうぞ。

【副会長】

子どもが生まれたらすぐに保育園に入れると思っている方と、事前の申請が必要であるとわかっている方がいる。初めてのお子さんではないのに、「すぐには入れないですよ」と、説明した方も何件かある。予約が必要となつてからずいぶん経つが、いまだに「生まれたら8週から入れるんですか」とこの間も質問された。「事前申請をしていないと定員もあるので余裕がない」と説明をして初めて、そうなのかとわかる保護者の方もいる。実際に、上の子どもが運よく入れたから二人目も入れるのかなと思う方や、働いていて育休が切れるからすぐに入りたいと思う方もいる。保護者の意見も聞いてあげたいが入る余地がない。キャンセル待ちになるという話をこの間はした。

【委員】

意外と、支援センターにいていない親子さんもいる。アパートに住んでいたりして、広報を読まずに気づかない方が2月くらいに園の見学に来たりする。

【会長】

母子手帳を交付する時に総合的な情報提供が必要だと思う。年度途中で県外、市外から転入する方への情報提供の仕方も大事だと思う。広報の仕方を見直す必要がある。まだまだ議論が続くので、また次回にさせてもらおう。気づいた点は事務局に寄せてほしい。

(2) 平成31年度入園児童数について

【事務局より説明】

【会長】

新年度の入園児童数と新規で入る方の希望状況一覧であった。なにか意見、質問があればどうぞ。公立園、私立園も一部定員を上回って受け入れていただいている。新規分については第2希望以降にまわった方もいる。

【副会長】

うちの園は希望がたくさんあると聞いた。在園児に広域で入っている子もいるが、もともとの磯部地区の方は入れてあげたい気持ちがあった。小さい子、0~1歳児の方をたくさんお断りしたので心が痛んだ。希望の人数を見て申し訳ない気持ち、何とかならなかったのかと思った。小さ

い子の部屋が広くなく職員も多くないので断った。難しいのが現状だ。

【会長】

入所の基準もあり優先事項もあるので、どうしても他の園へ回されてしまう子がいる。その他はいかがか。またお気づきの点は事務局までお願いしたい。次の議題を事務局より説明する。

(3) 平成31年度児童クラブ登録児童数について

【事務局より説明】

【会長】

新年度の児童クラブの登録児童数であった。たいへんニーズが多く増えてくる可能性がある。受け皿、それに対応するスタッフ、支援員の配置が大きな課題になる。坂井市では実施場所が児童館および小学校など、色々な場所で開いていただいている。これからのニーズ量との関係で十分な受け皿を作り、人を確保することが大きな課題だ。なにか児童クラブについて、資料について意見、質問があればどうぞ。

4. その他

【事務局】

資料4に平成31年度のスケジュールを示した。今後調査結果の分析を行い、順次作成していくが、子ども子育て会議は年6回開催予定なので、協力をお願いしたい。委員の継続が困難となる方は事務局までお願いしたい。

5. 閉会

【次長あいさつ】

(閉会)